

院外茶話

vol.130 平成28年3月1日

ご馳走を腹いっぱい
植民地の独立、尊王攘夷
金と名誉と志
夢と欲との境目は

夢・欲・願



焼け跡闇市とは。

焼け跡闇市派を自称する、野坂昭如氏の代表作「火垂るの墓」は終戦当時の極端な貧困の中で命を落とす、幼い兄弟の運命を描いたものであった。

私自身の記憶に残る世相は、その終戦から10年もたった昭和30年代で、相当豊かにはなっていたが、おやつと言えはきゅうりやトマト。今とは比べるべくもない。

夢は、鍋の半分以上を肉が占めるすき焼きを、腹いっぱい食べる。しかも、卵のお代わりをしながら。

後に、これくらいのことはできる身になったけど、豊かになると気分が変わって、いろいろなものを少しずつとか、訳のわからぬ贅沢を言い始めて、すき焼きを腹いっぱいという夢は、まだ叶わない。

この点、妻は着実に夢を果たしていった。その夢とは。

一つ、山形のさくらんぼを腹いっぱい食べる。

一つ、釜揚げしらすとご飯を同じ分量にして腹いっぱい食べる。

一つ、自分で握ったおにぎりを腹いっぱい食べる。

一つ、函館の朝市でイカソーメンを腹いっぱい食べる。

四つのお願い聞いて、とは言われなかったけど、さくらんぼとしらすは、旬の季節を待ってクリアをした。喜んで食べていたけど、翌日は具合の悪そうな顔をして、どちらも二度と口にする事はなかった。

おにぎりはいつでもできるはずだったが、太るからという理由で、なかなか実現しない。しかし、年々食が細る身体を実感すると、そろそろ一生の夢を叶えておかねばならない。

そこで正月に家族が集まった時に、八合の米を焚いて作ったおにぎりは二十と数個。具は鮭とたらこの二種類だけ。

この儀式にはこだわりがあって、惣菜もないし、途中酒を飲んでもいけない。ひたすらおにぎりを食べ続けて、二十個くらいがなくなった。ご飯に換算すれば六合くらいかな。

腹はこわさなかったけど、翌日から食べ癖がついて、結果的には予想外の肥満を招く。メタボの予防には、おにぎりの食べ過ぎも、注意をしておいた方がいい。

北海道、函館のイカソーメンだけは、まだ実現をしていない。



夢のおにぎり 24個。

その北海道の札幌農学校で教鞭をとったのがクラーク博士。

「少年よ、大志を抱け。」

恥ずかしいながら我が家の大志とは、せいぜいすき焼きか、イカソーメンなのであります。

そのすき焼きの夢を見ていた当時、私の本棚に転がっていたのが千夜一夜物語だった。

結構惨い話で、奥方に浮気をされた王様が、見当違いの復讐心をもやして、若い娘と一夜をともにしては殺してしまうのである。これをやめさせるために、ある娘が王様のもとに出向いて、夜毎面白い話を聞かせるようになった。王様は話の続きが聞きたくなって、娘を殺さずに話は千と一夜も続く。

この物語に登場するのがアリババやシンドバッド、アラジンなど。

アリババなんて言うと、今の若者は中国のオンラインマーケットと思うかもしれない。でも、これは40人の盗賊を率いた首領の物語で、「開けゴマ」という呪文を唱えた人物です。

同様にシンドバッドは渚でピンクレディーをナンパした男ではなくて、世界を股にかけた冒険家の船乗りである。



どこでもドアとこれが欲しい。

アラジンが魔法のランプをこすると、鬼神が出てきて何でも願いを叶えてくれる。もし、私がこのランプを持っていたら、一番に腰痛を治してもらおうだろう。

でも若くて健康なアラジンが頼んだのは、まずご馳走。腹が満ちたら、次はお姫様と結婚をすること。それに豪華な宮殿であった。

炬燵の中で、すき焼きの夢を見た私とは大きな違いがある。しかし、それは夢の桁が違うだけで、要は酒と女と豪邸。成り上がりのハリウッドスターと変わりはない。

例え、相手がお姫様でも、数年も経てば私と同じ運命をたどることになるだろう。

こうなると夢と欲との境目が、だいぶ曖昧になってくる。多分、自分だけがよい思いをするのが欲で、夢とはもう少し高尚なもの。

その夢には個人的な損得だけでなく、社会性があるのが特徴で、ぶれない到達点があるはずである。

世界で最上級の夢と言えば、インドの独立を目指したガンジー首相。不服従、非暴力の戦略は古い映像で見たことがある。

暗殺も恐れずに、奴隷制度の撤廃を訴えたキング牧師の演説にも、深い感銘を受けた。

もちろん日本にも、西郷隆盛がいて勝海舟がいて、他にも数え切れぬ人々が、夢を抱いて消えていった。

スケールは少し小さくなるが、人々の心を動かす話があって、それは池間哲郎氏が記した途上国の貧困と、そこに暮らす子供たち。異臭を放つゴミ捨て場で生活の糧を探す少女に、夢は何かと訪ねると、

「大人になるまで生きること。」

「火垂るの墓」に描かれた世界も同じことで、これは夢でも欲でもなく、切実な願いである。

寝たきりになった人は、再び立って歩きたいと思う。失明をした人はiPS細胞の発展に望みを託して、見える世界を願う。

「少年よ、大志を抱け。」

クラーク博士の言葉には続きがある。

「金のためでも、欲のためでも、名声のためでもなく・・・。」

この後に続く言葉には諸説があるけど、一説には「老人のように」で締めくくられる。

先行き短い老人が何を望むか。それはその時になってみないとわからない。でも、先がそう長くないことは確かだから、欲であろうと夢であろうと、その日に一番しておきたいことをしておくべき。

これは何も老人に限ったことではないかもしれないが。



少年よ、大志を抱け